

業務用だしパック強化

自動化で生産能力7倍に

かつお節の製造販売を手掛ける丸鉦(まるしょう)、本社名古屋市中西区城西、後藤康夫社長、電話052・521・9236)は、業務用だしパックの販売を強化する。だしパック製造工場に自動化設備を導入し、生産能力を従来比7倍に引き上げた。主要取引先の外食チェーンの海外進出と深刻な人手不足を背景に、だしを簡単に作ることができる業務用だしパックの需要が増加すると判断した。また、新しい業務用だしパックの商品開発にも積極的に取り組みでいく方針。

(梶田宏行)

丸 鉦

だしパックは、かつお節などの粉末を不織布の袋に詰めたもの。煮出しただし汁のあくを取り除いたり、こしたりする手間を省くことができる。

丸鉦は、かつお節などの原料調達から、だしパックの製造まで自社で一括管理している。顧客の要望に応じて、原料の種類や量を調



自動化設備を導入した自社工場(名古屋市中西区)

整したオリジナルのだしパックを提供している。

同社の主要取引先は、中部地区に本社を構える外食チェーン。取引先の海外進出拡大に加え、国内では人手が不足しており、だしを

簡単に作ることができる業務用だしパックの需要は高まっているという。

昨年秋に、袋にだしを自動充填(じゅうてん)する設備などを自社工場に導入した。生産能力は、これまでのスタップ7人体制による日産400キから、2人体制で日産800キと飛躍的に拡大した。

新しいだしパックの商品化にも取り組んでいる。袋に特殊なフィルムを使用することで、不織布の袋に比べて、うま味をより引き出せるようになるという。試作品の改良を進めており、5月ごろをめどに販売を始

めたい考え。だしパックの売上比率は5%強にとどまるが、5年以内に5割程度に引き上げる方針。

新事業部企画課の後藤昌彦課長は「取引先の要望に応えたオリジナルの業務用だしパックの提供で、差別化をサポートしていく」と話している。

同社は19952年創業で2015年度の売上高は9億5600万円。原料のかつお節などは、国内で水揚げされて加工されたものを仕入れている。町のうどん屋など個人店とも取引している。

